

# 第4学年 道徳科 学習構想案

日時 令和6年7月10日(水) 第3校時  
 場所 4年1組教室  
 指導者 教諭 山内 泰子

## 1 学習構想

主題名	きょう土を大切にする心 (内容項目C(16)伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度)	
ねらいと教材	(1)ねらい 海士町に自分の町(津奈木町)を重ね、話し合う活動を通して、自分の町にもたくさんのおよさがあることに気づき、自分の郷土を大切に思う心情を育てる。 (2)教材名 ないものはない 出典:「みんなの道徳④(Gakken)」	
評価の視点	評価の視点1	評価の視点2
	海士町に自分の町(津奈木町)を重ね、話し合う活動を通して、自分の町のよさについて考えている。	自分の町のよさについて、自分の生活経験と関わらせながら考えている。
<b>目指す児童の姿</b>		
自分の住んでいる町のよさをたくさん見つけ、自分なりの町のすてきに気づくことのできる児童		
主題に迫る学習課題(本時)		本主題で働かせる見方・考え方
自分の町(津奈木町)のよさについて考えよう。		郷土のよさについて多面的・多角的に考え、自分との関わりで考えながら、自己の生き方についての考えを深めていくこと。
内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導		
<b>各教科等</b>	<b>道徳科</b>	<b>体験活動等</b>
<p><b>【社会】わたしたちの県</b> 日本の都道府県と自分たちが住んでいる県に関心を持ち、県の特徴について考え、関心をもつ。</p> <p><b>【国語】新聞を作ろう</b> 自分たちの関心のあることについて調査し、見せ方を工夫して書く活動を通して、津奈木町のよさを発信できる新聞を作成する。</p>	<p style="text-align: center;"><b>「ないものはない」(本時)</b> <b>C(16)伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度</b></p> <p>主題名 きょう土を大切にする心</p> <hr/> <p style="text-align: center;"><b>「折り紙」</b> <b>C(16)伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度</b></p> <p>主題名 日本人の知えと心</p>	<p><b>【総合的な学習の時間】</b> <b>「津奈木町のよさを見つけよう」</b> 自分たちの住む津奈木町のよさについて調べの中で、人・もの・ことのおよさに気づきまとめ発信し、関心を高める。</p> <p><b>【クリーン登校】</b> 登校班で地域の清掃に取り組むことで、積極的に地域に関わり、日頃の感謝の思いを形に表す機会をもつ。</p>

## 2 主題設定の理由

<b>学習指導要領における該当箇所(ねらいや指導内容についての教師の捉え方)</b>
<p>本主題は、第3学年及び第4学年の内容項目 C(16)「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を基にしたものである。我が国や郷土の伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国や郷土を愛する心をもつことに関するものである。</p> <p>自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で心のよりどころとなるなど、大きな役割を果たし精神的な支えとなるものである。地域のおよさや伝統、習慣について目を向け、それらを大切にすることを通して、郷土のおよさについて考えさせ、自分の郷土を大切にしようとする気持ちを育てることが大切であると考え、本主題を設定した。</p>

本主題における系統			
<b>小学校第3学年 内容項目 C(16)</b> <b>(伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)</b> 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。 ・教材名「けい君の秋田竿灯まつり」 ・主題名「でんとうを受けつぐ」	<b>小学校第4学年 内容項目 C(16)</b> <b>(伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度)</b> 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。 ・教材名「ないものはない」 ・主題名「きょう土を愛する心」	<b>小学校第5学年 内容項目 C(17)</b> <b>(伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度)</b> 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。 ・教材名「復興への願いフェニックス」 ・主題名「郷土を愛する思い」	
児童の実態（児童の学習状況や実態と教師の願い）			
■学習するにあたっての学級及び児童の様子			
略			
■主題に関する意識の状況			
質問事項			
① 津奈木町が好きですか。	はい	どちらでもない	いいえ
略			
② 津奈木町をおすすめするなら、どんなことをおすすめしますか。			
■考察			
略			
教材の価値（使用する教材の特質や具体的な活用方法）			
<p>本教材は、旅行で島根県の海士町に来た主人公が「ないものはない」というポスターを見て、その意味について考えていくことを通して、ねらいに迫るものである。</p> <p>主人公が見た海士町のポスター「ないものはない」は、「ないものはつくればいい」「くらしに必要なものはすべてある」という意味である。最初は分かりやすい名所を探そうとしていた主人公が、きれいな空と海など、何気ない風景や人が、この町のお勧めであることがわかってくる。</p> <p>本教材を活用した授業においては、海士町と自分の町を重ね合わせた中心発問を行うことによって、児童のこれまでの町に対する思いや本音を引き出しながら、郷土を大切に思う心に気付かせたい。</p>			

### 3 指導に当たっての留意点

#### 【①体験活動とつなげた導入・終末】

- 授業の導入場面では、総合的な学習の時間での活動を振り返り、自分が見つけた津奈木町のよさについて想起させ、児童が本時の主題に関わる問題意識を持てるようにする。
- 授業の終末では、津奈木町出身でお店を運営されている方の動画を流すことで、自分の住んでいる町への関心をさらに高められるようにする。

#### 【②「考え、議論する道徳」となる場(ハートつなぎタイム)の設定】

- 思考ツール(心情ものさし)を活用し、海士町と津奈木町とを重ね、自分の考えを可視化し、友達と交流する場面を設定することで、町のよさについて考えられるようにする。

### 4 人権教育を通じて育てたい資質・能力について

- 自分の考えを持ち発表できる場(ペアや全体交流)を設定し、お互いの考えを認め・議論し合えるようにする。
- 発表する人に体と目と耳を向けたり、うなずくなどの反応をしたりして友達の意見や考えを尊重する態度を育てる。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

海士町に自分の町（津奈木町）を重ね、話し合う活動を通して、自分の町にもたくさんのよさがあることに気づき、自分の郷土を大切に思う心情を育てる。

### (2) 展開

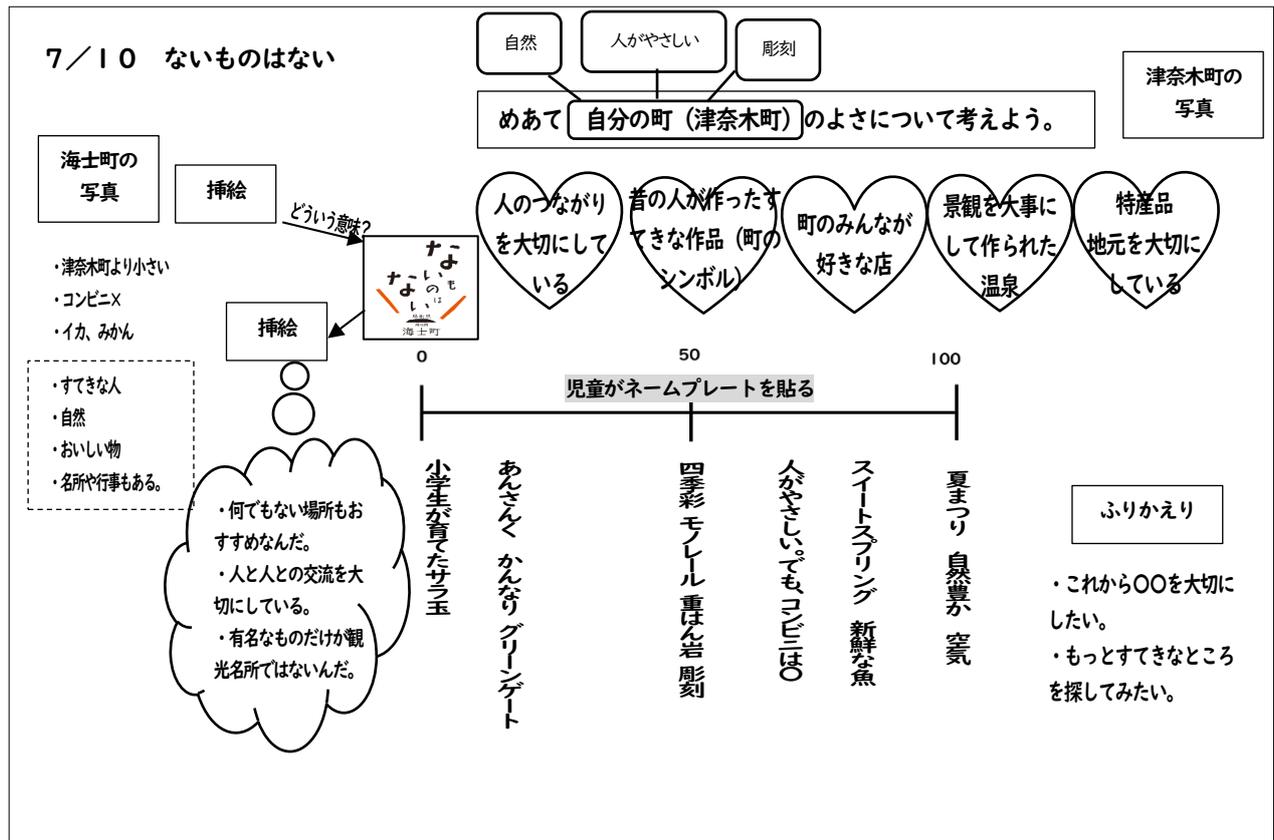
過程	時間	学習活動 (◎中心発問◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<b>1 本時の学習課題を知る。</b> ○総合的な学習の時間でまとめた津奈木町のよさについて振り返る。	・町散策での写真を提示し、津奈木町のよさ見つけについての学習を振り返る。 ・津奈木町に対する自身の思いと教材とを重ねることで、めあてへとつなげる。
		<b>【めあて】</b> 自分の町（津奈木町）のよさについて考えよう。	
展開	30分	<b>2 教材を読み、登場人物の気持ちや考えについて話し合う。</b> (1)教材を聞いて海士町という町について押さえる。 ○海士町は、どんな町かな。 ◇津奈木町より小さい。◇コンビニや大きなスーパーもない。◇イカ、みかん (2)教材について話し合う。 ○こうすけは、観光協会の方の話を聞いて、海士町に対してどんなことを思ったのだろう。 ◇何でもない場所もおすすめなんだ。 ◇人と人との交流を大切にしている。 ◇有名な物だけが、観光名所ではない。 ◎海士町と津奈木町ほどのくらい似ているかな。 ◇魚がおいしい。自慢できるものがあるから結構似ていると思う。 ◇重磐岩や四季彩など、海士町より有名な物があるから、あまり似ていない。 ◇スイーツスプリングなど、津奈木町の特産品と崎みかんが似ている。	・教材を読む際、「海士町」について簡単に説明をする。また、主人公の気持ちの変化を考えながら聞くことの視点を与え、本時で考えたいことに迫れるようにする。  ・こうすけの海士町を案内してもらう中での気持ちの変化を考えさせ、郷土を愛する気持ちや、郷土のよさについて引き出す。  ・「ないものはない」をキャッチコピーにしている「海士町」のよさを押さえることで、中心発問につながりやすくする。
		○「津奈木町」にはどんなよさがあるのだろう。 ◇人のつながりを大切にしている。 ◇町のみんなが好きな店。 ◇昔の人が作ったすてきな作品。 ◇景観を大事にして作られた温泉	・問い返ししながら、津奈木町のよさについて多面的・多角的に考えられるようにしていく。
終末	10分	<b>3 学習を振り返る。</b> ○今までの津奈木町に対する思いや今日学習して思ったこと、これから大切にしていきたいことについて考えよう。 ◇津奈木町は自然豊かでおいしい物もたくさんあるので好きです。今日学んで、自分の知らないよさもたくさんあるなと思いました。これからも、津奈木町のいいところをたくさん探してみたいです。	・振り返る視点（今までの津奈木町に対する思い・今日学習して・これからは）を与える。  ・新しく出てきた「津奈木町」のよさは、板書する。  ・津奈木町でお店を営んでいる方の町に対する思いを伝え、余韻を残して終わる。 (動画)



【評価の視点1】海士町に自分の町(津奈木町)を重ね、話し合う活動を通して、自分の町のよさについて考えている。  
(方法:発言・ワークシート)

【評価の視点2】自分の町のよさについて、自分の生活経験と関わらせながら考えている。  
(方法:発言・ワークシート)

## 【板書計画】



## 【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画，ICTを活用した発表，まとめ等による考えの共有の計画等

導入時：津奈木町散策（総合的な学習の時間）の様子を提示する。

終末時：津奈木町でお店を経営されている方（保護者）の動画を流す。【電子黒板】